

回覽
⑤

「上桜田に生まれた地酒」
について（情報提供）

私達のこの町内会の土地から実ったお米で地酒が生まれたのです。その状況をお知らせします。


 なお、冒頭、お断りしますが、これはお酒の売り込み営業をするためのものではなく、この地酒より見えて来た、裏側に隠れている地域の特性・歴史を皆さんから知って貰い、この地域に住まいする事に誇りを持って頂くための一助になれば、との思いから紹介するものです。

1. 地酒の種類

純米吟醸酒「讓川」(1800ml・720ml)と純米吟醸原酒「十八夜」(720ml)の2品種です。(図-1の写真)

2. 経緯

当地区は、以前は、美しい棚田が広がり龍山川（国土地理院表記）から清らかな水を分け、とても美味しいお米の産地でありました。近年、平成 10（1998）年 4 月に芸工大前土地区画整理事業が始まり、10 年の歳月をかけて平成 20（2000）年に竣工し、今日のような立派な住宅地に変貌しています。しかし、当地区にはまだお米の棚田が残っております。

平成 25 年秋、東北芸工大建築・環境デザイン学科の学生さんからの様々な提案の中に、昔美しい風景が広がっている棚田で酒米を作りお酒を造れば、との提言がありました。この地でお米を生産している当町内会の舟越隆さんと佐藤邦夫さん・舩越隆雄さんは、それならば、この土壌・水の地力を活かした地酒を造れるはずだ、作りたいという情熱が沸き上がり、十数人の仲間と地酒づくりを決意し「滝山酒米研究会」を立ち上げました。

3. 人的ネットワーク・プロジェクト

酒に適したお米の品種選定からの生産工程、酒造り、酒の名称とラベルデザイン、販路など解決すべき難題が沢山ありましたが、お二人

は声を広げ、種粳販売会社（株）アスク、酒造会社（有）秀鳳酒造場、J A、東北芸術工科大学などを巻き込んだ一大プロジェクトを成して、挑戦的な取り組みを行いました。ついに昨年（平成27年）地酒として世にデビューさせたのです。その酒米の品種名は「山酒四号（別称“玉苗”）」といいます。

地元に係る生産工程は、採種・育苗、田植え、防除、除草、水管理、稲刈り、乾燥・調整、出荷へと繋がりますが、皆で労役を出し合い、それぞれの特技を発揮しつついわば総合力で開花させたものです。収穫祭等のおり、米作りにも直接関与した若い芸工大生と交流会を催しているが、世代間格差の融和に大いに貢献しています。

去年の味をさらに磨き上げ、いわばバージョンアップして
 本年も1月末に地酒を出しました。

4. 命名の由来

二つの酒瓶のラベルには次の内容が印字されています。

(1) 純米吟醸酒「讓川」

『純米吟醸酒「讓川」は酒米を植えた土地、山形市岩波

字讓川の地名から名付けられました。

この水田に来る水は、(※1) 岩波の石行寺のそばの瀧山川から取られています。その瀧山川から水を譲ってもらったことにちなみ、この付近一帯が譲川と名付けられたのです。この水はさらに (※2) 下流の上桜田、中桜田、青田、元本などにも至っています。この譲川一帯は 水がきれいで、しかも温度が冷たく、昔から知る人ぞ知るお米生産の好適地なのです。』

(2) 純米吟釀原酒「十八夜」

『 原酒「十八夜」は酒米を植えた土地、山形市大字上桜田字十八夜の地名から名付けられました。この十八夜には^(※3)「十八夜供養」の石碑があります。旧暦 10 月 18 日の夜、ここでお餅などをお供えし供養する行事が行われていたのでしょう。そのことからここを「十八夜」と名付けられたと思われます。こんな歴史があり、瀧山の伏流水にも恵まれた土地から生まれたのが原酒「十八夜」です。 』

5. 酒米“玉苗”の生産地等

酒米の生産地は、図-2の中の点線で囲んだ所です。字名「讓川」も確認出来ます。堰は、白黒印刷では太い線の筋で、もっと沢山の小堰が分流しています。

- ・なお、表示は、必ずしも地理的に正確ではありません。
- ・図－2は、ゼンリンの地図（購入）から抜粋したものです。



图-1



图-2

以上の内容は、本研究会プロジェクト・サブリーダーの舟越隆さんから提供された情報を元に作成したものです。

前記「4. 命名の由来」に紹介したラベルに記述の名所について、参考となる事柄を記述します。

（１）お酒のおいしさの決め手は、お米と水と言われますが、水に係る（※１）についてです。

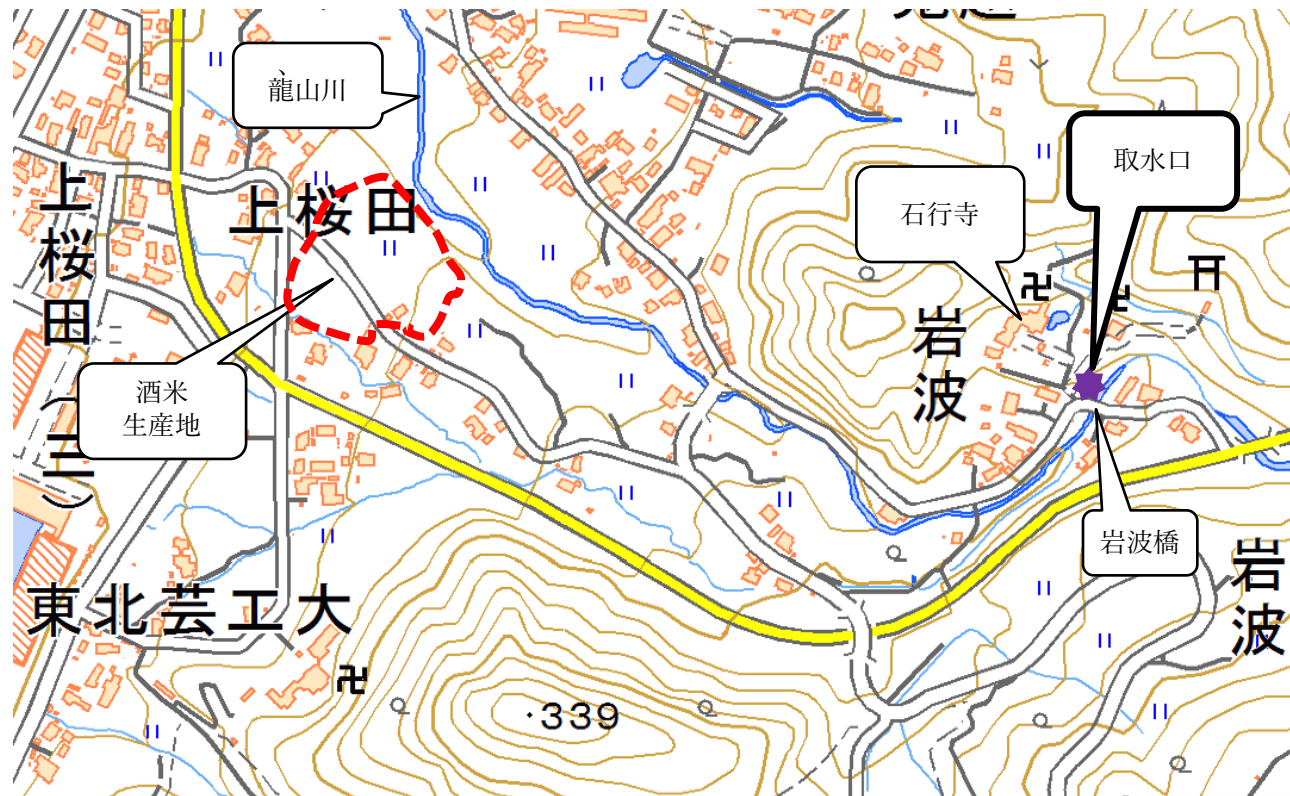


图-3



圖-4

取水口の場所等との位置関係は図－３のとおりです。

(2) 堰に係る (※2) についてです。

左記（図－3・図－4）、龍山川から取水した水は、前ページ図－2の分水点（枿）で、下流側に分水・分流して行きます。

その水は、昔により流域の水田の農耕用のみならず洗濯、庭の池須の水、生活用具の泥落としなど、いわゆる生活用水としても活用して来ました。その水の円滑な利用のために堰の泥上げ、堰土手の手入れ・除草は維持・管理上不可欠な仕事であったことから、町内会（村内）総出で対応して来ました。芸工大前区画整理事業が完了した今日は、農耕用目的は薄れて来たものの防火用水として新たな役目も負って、U字溝を通して当町内隅々まで行き渡っています。当町内会には水利組合はないが、そのような維持管理を担う役目を町内会が担っています。

(3)「十八夜供養」の石碑に係る(※3)についてです。

月には満ち欠けがあり、決まった月齢の日
に頭屋に集まり、主尊を祀る勤行と合わせ
て、飲食・会話を楽しみながら月の出を待つ
「月待信仰」の祈念碑を建立する風習がありまし

そこで、本件の石碑は図-5のとおりで、東（道路側）向きに立っています。石の正面右側に「文化十一年戊歳」（1814年）、左側に「十月十八日」と刻字されています。頭部、右側上に「日（太陽）」、左側上に「月」の刻字が認められます。

月齢の十八夜は十五夜（満月）から三日目の「居待月」（右側が少し欠ける）に当たり、また、18日は主尊たる観音様の縁日であります。4月18日は山の神を迎え、10月18日は山の神を送るという信仰とも習合しており、この碑は後者の祈念碑であろうと思います。

なお、十八夜は、この地の字名でもありました。

• • • • •



図-5

【編集後記】

- ・旧字名が消滅して行く、忘れられて行く昨今ですが、この地の字名が、地酒の銘柄となって復活している事に感謝します。
- ・上図－**6**は、区画整理前の当地区とその周辺の状態です。（上桜田18組のとしみつ柴田宗看さんより）
- ・このお酒は地元のお店（浅野酒・コンビニ、吉田酒店、J A滝山支店）で取り扱っています。以上のような事を知ると美味しさが一層増すのでは

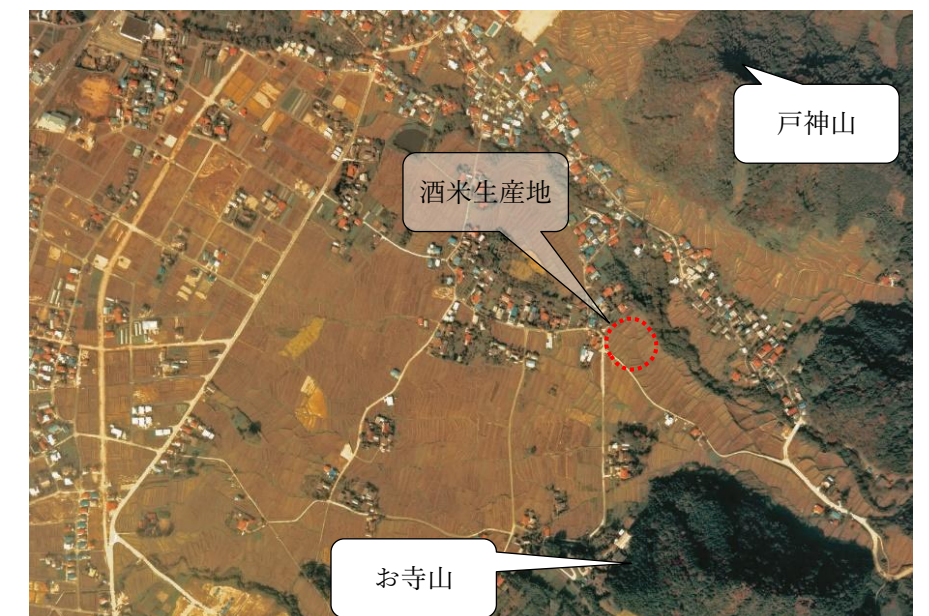


图-6

以上

＜町内会総務担当 大沼香＞